

一誌一句(受贈誌3・4月号他より)

米田透抄

よく気づく妻の声して董草

(詩あきんど)

二上 貴夫

氷像の連なる大路晴れ晴れし

(壺)

高橋 千草

父母の墓妻の墓小鳥来る

(犀)

桑原 三郎

改修の終へたる大河二月尽

(雅楽谷)

中田 水光

紅梅の丸葉ほどの蕾かな

(年輪)

坂口 緑志

お造りは明石の鯛や桜東風

(からまつ)

石川 春兔

桜守より孫守という時間

(鷗座)

松田ひろむ

寒椿落つ屈託なき残心

(風羅)

三木 星童

能登に幸あれと御形も芹も萌ゆ

(対岸)

今瀬 剛一

冬牡丹禅座の位置を正すなり

(海原)

安西 篤